

令和元年度沖縄総合事務局 国営土地改良事業等再評価技術検討会（第1回） 議事録

1. 日 時：令和元年6月13日（木） 開会 15時30分 閉会 17時30分

2. 場 所：ホテルアトールエメラルド宮古島 2階 艦の間

3. 出席者：（技術検討会）

委 員 井 口 千 秋 井口税理士・行政書士事務所所長
" 今 井 秀 行 国立大学法人琉球大学理学部准教授
" 内 藤 重 之 国立大学法人琉球大学農学部教授
" 吉 永 安 俊 国立大学法人琉球大学名誉教授

（五十音順、敬称略）

（国営事業管理委員会）

委員長 田中 晋太郎 沖縄総合事務局農林水産部 部長
委 員 高 橋 史 彦 " 農政課長
" 濱 井 和 博 " 農村振興課長
幹 事 今別府 純一 " 農村振興課課長補佐（整備）
" 飯 野 秀 之 " 企画指導官（経済資源）
事務局 新 川 哲 " 水利整備係長

（宮古伊良部農業水利事業所）

平 良 和 史 所長
鈴 木 智 也 調査設計課長
久 貝 一 文 環境調査専門官

（沖縄県）

平 良 和 彦 宮古農林水産振興センター農林水産整備課 課長
祖 田 英 俊 " 計画調整班長
有 馬 寿 志 " 計画調整班技師

（宮古島市）

砂 川 健 一 農林水産部農村整備課 調整官

（宮古土地改良区）

石 嶺 明 男 事務局長
新 里 貴 彦 企画整備班長

4. 議事概要：

開会

○吉永座長 座長をお引受けする。スムーズな議事進行に御協力をよろしくお願いしたい。それで

は議事次第に従って進めていく。

議事の１．「国営土地改良事業等の再評価について」事務局より説明をお願いします。

○新川水利整備係長 まず、資料１について説明させていただく。

＜資料１を説明＞

○吉永座長 引き続き、議事２．「再評価地区別結果書（案）」について、資料２を説明してもらい、質疑については、まとめてお受けしたい。

○平良所長 資料２の概要について説明させていただく。なお、詳細については、担当の鈴木調査設計課長より説明させていただく。

＜資料２－①、２－②及び２－③を説明＞

○吉永座長 それでは、ただいまの説明と現地調査及び配布資料について、御質問、御意見あればいただきたい。

○吉永座長 まず、私の方から一つ確認だが、資料２－③の37Pでかぼちゃとマンゴーの単位当たり収量が減っているのはなぜか。

○飯野企画指導官 現計画策定時点と比べてマンゴーは品質向上のために摘果が徹底されたので減っている。なお、品質向上に伴って単価は上がっている。かぼちゃもおおむね同様である。

○吉永座長 総額としては算出していないのか。単価と単収を掛け合わせれば算出されるのか。

○飯野企画指導官 今回の資料では算出していないので、試算をして次回の検討会で報告する。

○今井委員 資料２－③の44Pの「学習機能効果」の算定方法について説明願いたい。

○飯野企画指導官 学習機能効果については、地下ダムやかんがい施設などの役割を地域の人々に知っていただくことを効果として算定しているもので、CVM（仮想評価法）の手法によりこれら施設の役割を学んでいただくことに対して世帯当たり年間に払ってもよい金額をアンケートに基づいて算出したものである。

○今井委員 受益世帯数というのは、実際にかんがい水を使用している方々ということか。

○飯野企画指導官 その方々を含め、本地区の受益に係る来間島、宮古島及び伊良部島の世帯を対象に効果額を算出している。

○今井委員 少し思ったのは、水を使っていない人がこんなに出せるのかと思って確認した。

緊急水源確保効果は何となく理解できるが、それと比べて学習するということだけで、水を使わない人もこんな額を出してくれるのかということでお聞きしました。

○内藤委員 資料2－③の27Pだと面積規模3.0ha以上の販売農家は減っているが、全体的には増えている。この事業で基盤整備に加え農地開発も行うなどで農地面積が増えているのか。

○井口委員 資料2－③の19Pでは、耕地面積は減少している。

○鈴木調査設計課長 農家数と耕地面積の推移などは、もう一度精査して次回の検討会で報告する。

○井口委員 資料2－③の21Pで、H17からH27で185農家が増えている。資料2－③の25Pでは、新しく農家になった新規就農者が累計で536人とあり、差し引くと10年間で約300人以上の農家が止めているということになるのか。

○飯野企画指導官 そういうことになる。

○今井委員 止水壁を作る前の海岸では、地下水がしみ出ているような状態なのか。地下水は海の中にしみ出るのか、（岸壁から）海に放流されているのか。

○平良所長 海の中にしみ出る場所や、（岸壁から）海の上に放流される場所など様々である。

○今井委員 オカヤドカリなど、海の上に出る水で生活している生態系があるはずなので、工事の後になんてなっているのか気になるところ。

○平良所長 環境配慮の所で少し説明させていただいたが、地下ダム下流の湧水（ガー）が数箇所あり、工事の前から水量調査している。現時点で大きな影響はないと把握しているが、万一影響あれば迂回路を造成して水量を確保するように計画している。

○今井委員 ヤドカリの他、ミヤコサワガニなどが影響を受けて絶滅してしまうと大変なことになるので、工事の前後でちゃんと監視した方が良い。

また、湧水が海岸にある場合と内陸にある場合に、内陸（山側など）での影響が大きいと思われるが、これまで何か影響のあった事例があるか。

○平良所長 本地域ではなく、地下ダムの下流側における対応を十分に行う。

○今井委員 洞窟性の目が退化したエビなどがこの地域にいるが、環境アセスなどで確認しているのか。

○平良所長 環境アセスの対象となっていないが、第三者を含めた環境情報協議会を開催し、確認の上で事業を進めている。

○内藤委員 資料2－③の44Pの受益世帯数について、学習機能効果は22,648世帯で、緊急水源確保効果は26,779世帯となっている。調査時点がそれぞれH19とH30となっており、核家族化などにより世帯数が増えたということか。

○飯野企画指導官 学習機能効果は、宮古島、来間島及び伊良部島の世帯だが、緊急水源確保効果は、本地区の受益外の池間島も含めているので世帯が多くなっている。

○内藤委員 国産農産物安定供給効果の97円/千円は、何かの調査に基づいて算出されたのか。

なお、国産農産物の安定性だと作物によって違う気がするが、一律で算定するのか。

○飯野企画指導官 御指摘のとおり、作物によって色々と条件が異なるかと思われるが、効果算定マニュアルにおいて全国で一律に使用する原単位が示されており、それを使っている。

○内藤委員 飼料作物は含まれているのか。

○飯野企画指導官 飼料作物は、間接的に人の口に入ることから含まれている。反面、葉たばこは人の口に入らないので除外することになっている。

○井口委員 資料2－①の4Pの仲地副貯水池の箇所の記述で地域住民の意見とあるが、実際に意見を聞いているのか。

○鈴木調査設計課長 工事説明会などで地域住民の意見を伺っている。

○今井委員 副貯水池に関連して、資料2－③の48Pで貴重植物の記述があるが出てきているか。

○鈴木調査設計課長 現時点では出てきていない。

○吉永座長 関連事業において貯水池など造成する場合、地域の環境委員会に諮っているのか。

○平良農林水産整備課長 関連事業においては、地域の環境委員会に諮っており、環境に配慮した施工を行っている。

○今井委員 仲地副貯水池に入れないようにするのか。

○久貝環境調査専門官 将来的にはフェンスで囲むこととしている。

○今井委員 本島などで、黙って外来魚（ブラックバスなど）を放流されて困っているところがあ

るので、囲うべきである。

○吉永座長 それでは、意見がもうないようなので、本日の質疑はこれで終わりとする。

後日追加質問がある委員は、事務局に御連絡いただきたい。

事務局は、次回の検討会に向けて、本日回答できなかった部分をまとめて報告していただきたい。

また、本日欠席の具志委員に質疑内容を報告して、意見を伺っていただきたい。

それでは進行を事務局にお返しする。

閉会